兵庫県立西宮病院 地域医療連携センター便り

はまかぜ

風が運ぶお知らせ便り♪

HAMAKAZE
SEASONAL INFORMATION FROM
HYOGOKENRITSU
NISHINOMIYA HOSPITAL
2015 Vol.11

ワンランク上の病院をめざして

私たちは、患者さんの意思を尊重し、高度で良質な医療を
提供することによって、地域社会に貢献します。

Message メッセージ

循環器内科診療の現況

末梢動脈疾患に挑む

■概要、Q&A、スタッフ紹介 etc.

Information お知らせ

■にしびょうTopics
新人看護師オリエンテーション基礎看護技術研修

■薬剤師の一日
薬剤部　中尾あゆみ

■院長エッセイ「四季雑感」
楠木のように

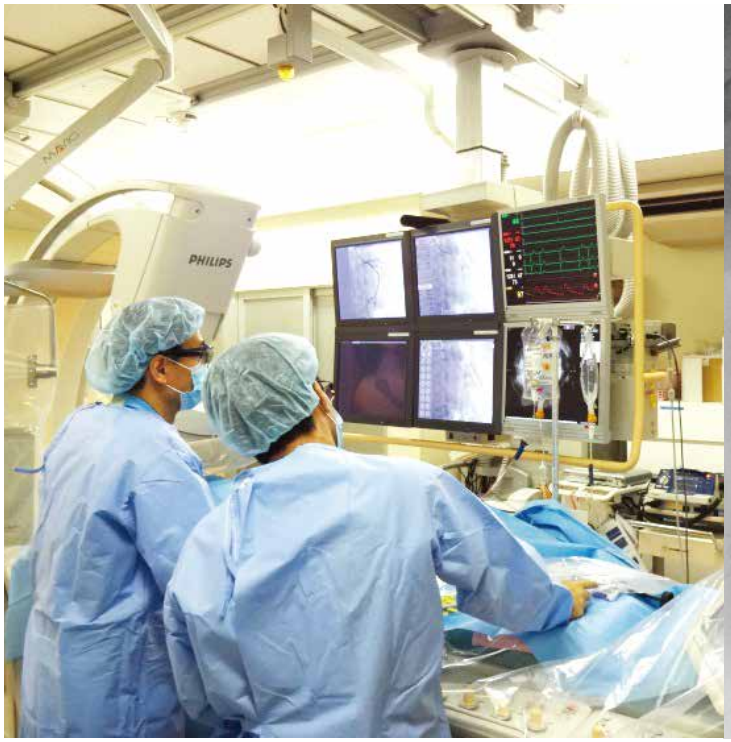
■医療技術NOW!
薬剤部による安全な抗がん剤治療への取り組み

■絵の中の風景を旅するvol.11
にしびょう美術館館蔵品を毎回紹介

循環器内科診療の現況

循環器内科部長：間木野　泰祥

Pick Up. 011
循環器内科



末梢動脈疾患（PAD）に挑む

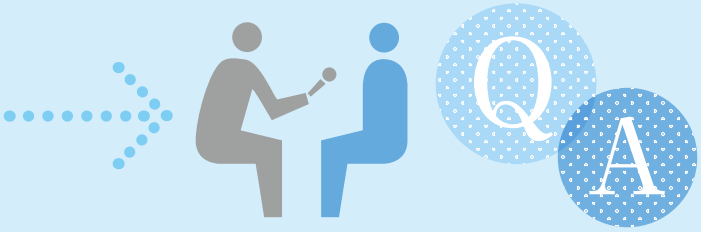
末梢動脈疾患（peripheral arterial disease; PAD）の世界的な有病率は21世紀初頭の10年ほどで20%以上増加し、2010年の患者数は2億人以上に及ぶことが、英国・エジンバラ大学の調査で示されました。本邦では、人口を基に集計したデータがないため、PADの発生頻度に関する正確な数値は発表されていませんが、疫学調査と2002年の60歳以上の人口からは全国に約660～760万人ものPAD患者がいると推測され、食生活の欧米化と高齢化により、PADの患者数は年々増加していると思われます。しかし、実際に治療を受けている患者数は78,000人程度であり、多くのPAD患者が潜在していると考えられます。

PADの治療として、以前は薬物治療にて保存的に経過観察され、最終的に下肢離断術に至る場合があり、PADの末期は皮膚科、整形外科の疾患と捉えられていました。最近になりバルーンによる従来の血管形成術に加えて自己拡張能を有した金属ステントが開発され、高い初期開存率を得ることが可能になりました。さらに冠動脈インターベンションと同様に薬剤溶出性ステントの導入により、慢性閉塞病変に対しても良好な治療成績を得ています。

PADは、アテローム性動脈硬化症に起因する心血管疾患として、冠動脈疾患、脳卒中に次いで3番目に多く、そのリスク因子としては、喫煙の影響が最も大きく、次いで糖尿病、高血圧、高コレステロール血症の順となっています。当院では、糖尿病内科と連携を取り、糖尿病患者の運動療法時の間欠性跛行の有無に止まらず、ABIのルーチン評価により正常以下を呈した患者は循環器内科を紹介受診しています。これからもPADの鑑別、治療にお役に立てれば幸甚です。

循環器内科について質問!

INTERVIEW



Q 心不全にならないようにするにはどんなことに注意したらいいですか?

A 心不全は、入退院を繰り返すたびに確実に心機能と予後は悪くなります。いかに症状の悪化を予防し、軽症の段階で早期受診して頂けるかによって、心不全患者さんの生活の質は維持・向上します。塩分・水分の摂り過ぎ・お薬の飲み忘れや自己中断・過活動などの生活に関連した原因が多いですが、予防できることもできます。9階循環器病棟では、再入院の原因を患者さんと振り返り、心不全手帳の導入により患者様自身がセルフモニタリングを行えるよう取り組みを開始しています。

Q だれに相談したらいいですか?

A ご入院された時には、9階病棟でまた外来では循環器科医師にお声をかけて頂ければ、御相談に応じます。いかにその人らしく療養生活が送れるかを大切に、一緒に考えていきましょう。

(慢性心不全看護　認定看護師　小野　友圭里)

最新情報

薬剤溶出性ステントによる下肢動脈治療

間歇性跛行などの症状を来す下肢の閉塞性動脈硬化症が近年増加傾向にあります。冠動脈の治療では既におなじみの薬剤溶出性ステントが最近、下肢動脈の領域でも使用可能となり当院でも採用しております。抗癌剤の一種であるパクリタキセルがコーティングされたステント(商品名:Zilver PTX)で、この薬剤はステント留置後に動脈壁の細胞に取り込まれ、動脈の再狭窄を防ぐ効果があり、優れた臨床成績が報告されつつあります。

(循環器内科部長　松岡　哲郎)

スタッフ紹介

左から

- 間木野　泰祥(循環器内科部長)
- 松岡　哲郎(循環器内科部長)
- 髙安　幸太郎(循環器内科専攻医)
- 森本　啓介(循環器内科部長)
- 福田　憲二(循環器内科医長)

にしびょうTOPICS

新人看護師オリエンテーション基礎看護技術研修 (2015.4.23)

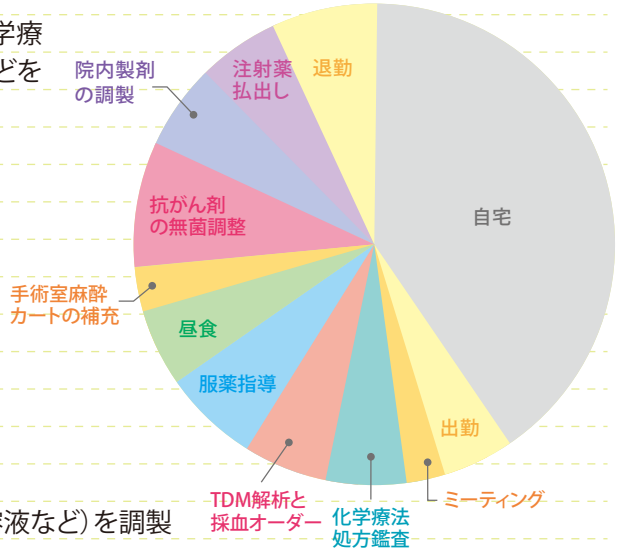
4月1日から新しい仲間ができました。4月2日から新採用者オリエンテーション、4月8日からは基礎看護技術研修を受け、4月16日から部署に配属になっています。研修期間にはグループワークなどで同期で話し合う場も多く、和気あいあいと研修を進めていました。部署では緊張が取れない表情ですが、先輩に教えてもらいながら1つずつ実践しています。

（教育専従看護師長　網本　久代）

薬剤師の一日

中堅薬剤師の
勤務スケジュールです。
ずっと息つく暇もない状態です。

8:45～9:00	薬剤部内ミーティング（予定、連絡事項）
9:00～10:00	化学療法処方監査（医師のオーダーが化学療法レジメンに適しているか日程や投与量などをチェック）
10:00～10:45	TDM（血中濃度）解析と採血オーダー
10:45～12:30	担当病棟の持参薬鑑別と服薬指導
12:30～13:30	昼食など
13:30～14:00	手術室麻酔カートの補充（毎日交換するカート内の使用済薬品の補充）
14:00～14:45	オンコールがあり、外来化学療法室で抗癌剤の無菌調製
14:45～15:30	抗癌剤調製の合間は注射薬の払出しの手伝い
15:30～16:30	外来や入院から請求のあった 院内製剤（内服用ルゴール液、滅菌ピオクタニン水溶液など）を調製
16:30～17:30	注射薬払出し
17:30～	事務処理　退勤



上記以外に調剤室で内服薬（錠剤、散薬、水薬など）外用薬（軟膏、湿布など）を調剤する時もあります。術前センターでの薬品鑑別もオンコールで行っています。業務終了以後も担当の事務仕事をするなど17時半に仕事が終わることはなかなかありません。

四季雑感

夏のトワイライトは、木洩れ日が揺れる林間であれ、ビルの谷間であれ、さわやかな高揚感を与えてくれるときがあります。とは言っても昼間の高温多湿を好む人はまずいないでしょう。

炎暑にはことさら脱水に気をつける必要がありますが、ただ水分だけをとっていては血管内に水を保持できませんので、適度の塩分を補給するようにしたいものです。とくに高齢者は排尿などの問題があり、外出時に水分補充をつい怠ってしまいがちですが、これは脳梗塞や心臓発作の大きな誘因になってしまいます。

八月は「葉月」とも呼ばれますが、そのイメージとしては、樹々に青葉が生茂り、燦々と照りつける太陽が地面に濃い影を落としているというようなものでしょう。ところが八月といっても陰暦のことですから、新暦では秋にあたるわけで、一説によれば「葉落ちの月」が「葉月」に転じたようです。そうなればまったく逆の寂しいイメージに陥ってしまいます。

県立西宮病院では、昨年度に病院機能評価の新たな認定を受け、電子カルテの更新を行いましたが、ちょうどこの季節に職員は準備に追われてアツい日々を送っていました。とくに電子カルテの更新は、患者さんや地域の先生方にはご迷惑をおかけしたと存じますが、これといったトラブルもなく遂行できました。ある関係者から、これほどスムーズに行われた事例を知らないというお褒めの言葉をいただきました。これも県立西宮病院にはいざという時に発揮される大きな職員パワーがあったからこそではないかと思っています。

しかし来年度以降には診療報酬のマイナス改定が予想されており、病院経営にとっても厳しいものになりそうです。そのような状況になっても、私どもの病院はその職員パワーを生かして、夏日に耐えて、あるいは凍える寒風にめげず、屹立する楠木のようでありたいと願っています。

兵庫県立西宮病院　院長
河田　純男

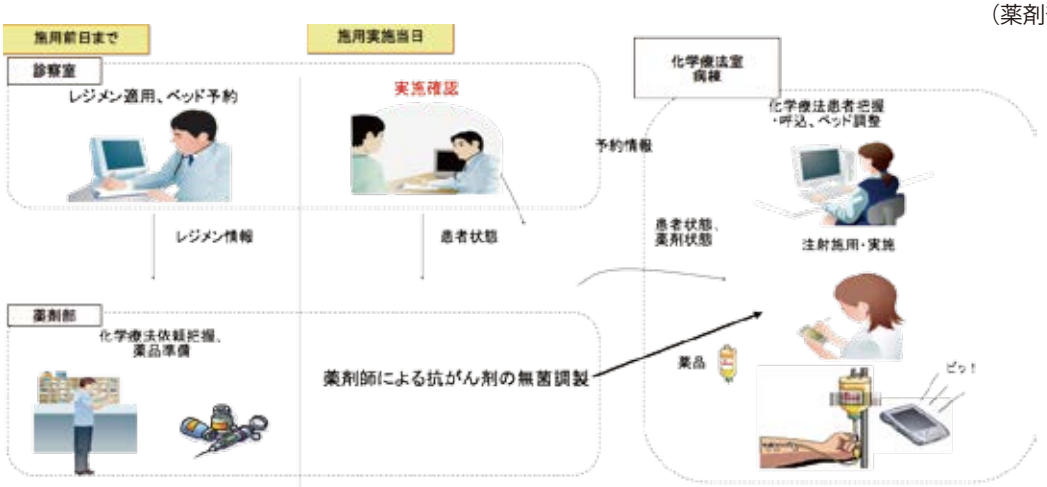
医療技術 NOW!

西宮病院の「今」がわかる。

【薬剤部による安全な抗がん剤治療への取り組み】

本年2月に電子カルテ更新にあたり、医師・看護師・薬剤師の多職種による登録レジメンの見直しを行い、輸液、制吐剤等の標準化及び投与順序、投与ルートを設定し、安全対策を図っています。富士通電子カルテのレジメン管理システム及び過去の投薬履歴をカレンダー形式で参照できるケモ助を薬剤部門システムに導入してレジメン管理を行い、安全な抗がん剤治療への取り組みを行っています。今後は、外来での薬剤情報提供及び服薬指導のさらなる充実を図っていきます。

（薬剤部：相生　勇作）



絵の中の風景を旅する vol.11

http://www.nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp/

当院外来ロビーや各病棟には、地域の方々や入院患者さん、そのご家族などからのご寄付による200点以上にのぼる絵画が飾られています。"にしびょう美術館"の貴重な"館贈品"は、当院ホームページ内の「にしびょうWebミュージアム」でも常設展示していますが、これらの作品の中から、毎回、ちょっと気になる1作品をとり上げてご紹介いたします。ご一緒に、絵の中の風景を旅してみませんか。

展示場所

当院ホームページ
Webミュージアム

皆さんは、この作品がどこの風景かご存知ですか。この作品は兵庫県の北部に位置する香美町にある全長309. 4m、高さが41. 5mあるＪＲ山陰本線の名物鉄橋、「余部鉄橋」が描かれています。この鉄橋は山が海に迫る地形で、東西の山に架け渡されているため、特に冬場、日本海の強風が吹き荒れ、列車が遅延したり、運休したり、さらには痛ましい事故もありました。そこで、今では暴風壁を備えたコンクリート橋梁に架け替えられました。私も先日行きましたが、鉄橋の一部を展望施設として保存した、新しい観光スポット「余部鉄橋『空の駅』公園」として生まれ変わっていました。皆さんもこの秋、ドライブに、鉄道旅行にこの「空の駅」に行かれてはいかがですか。この作品は滝口吉樹さんの作品です。

（総務部：足立彰久）

編集後記

編集室

暑い日が続いておりますが、みなさんいかがお過ごしでしょうか。MSWの福島です。地域の先生方にはいつもご支援・ご協力いただきありがとうございます。私の勤務する地域医療連携センターには毎日、多くの広報誌が届きます。今回、編集後記を担当することになり、改めて他の施設の広報誌の文字の大きさやデザイン、紙面のレイアウトまでじっくり読むようになりました。今後もこの『はまかぜ』を分かりやすく、読みやすいように編集しお伝えできればと思います。

(地域医療連携センター　MSW福島彩香)

HAMAKAZE
2015 Vol.11

兵庫県立西宮病院
〒662-0918 兵庫県西宮市六湛寺町13番9号
TEL:0798-34-5151(代表) FAX:0798-23-4594
地域医療連携センター FAX:0798-34-4436
E-mail:chiiki-kn@hp.pref.hyogo.jp

nishihosp.nishinomiya.hyogo.jp
2015.07 発行